

あ い さ つ

作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部
教職実践センター長 九津見 幸男

中央教育審議会第184号答申、「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い、高め合う教員養成コミュニティの構築に向けて～」において、大学等と教育委員会との協議・調整のための体制（教員養成協議会）の構築、大学等と教育委員会の協働による教員養成指標の作成、教員養成コアカリキュラムの作成等が叫ばれ、学び続ける教員を支えるキャリアシステムの構築のための体制整備が着々と進められています。

上記の内容を見据え、本大学においても平成30年度から作新学院大学人間文化学部の学部改変を行い、発達教育学科と心理コミュニケーション学科の1学部2学科として再スタートをいたしました。発達教育学科の特色として、小学校教諭1種免許状を基礎免許とし、中学校・高等学校の「国語」の1種教員免許や、栃木県内の私立大学では唯一「特別支援学校教諭（知的障害）」の1種教員免許が取得できることです。特に「特別支援学校教諭免許」は、特別支援学級の増加や通常学級での配慮を要する子どもの増加等教育関係機関で大いに期待されております。また、経営学部での高等学校の商業、短期大学部での幼稚園教諭、保育士など、様々な免許や資格取得にも対応してきております。

特に教員養成となる大学においては、教員となる際に必要な基礎的・基盤的な学修であること、学校現場や教職に関する実際を体験させる機会の充実等が課題として挙げられています。本センターにおいても、1人1人を丁寧に看取り、個に応じた支援を心がけ、学生が安心して大学生活を過ごし、教職課程を履修できるような支援を行っています。また、宇都宮大学教育学部附属幼・小・中学校の公開研究発表会、宇都宮市小学校教育研究会の公開授業、大学のある清原地域内の小・中・高のオープンスクールでの授業参観等に学生の参加を積極的に行うと共に、教育現場や教育行政の方々の講義や県立博物館の授業への取り入れ等、学校現場や教職に関する実際を体験し、理解できるような取り組みを行っています。さらに、学校ボランティアとして、各教育委員会と連携しながら、放課後や土日祝日等の児童生徒の学習指導をはじめ、授業における支援など実体験を重視した教育活動を展開し、教員として必要な資質の向上を図っています。特別支援教育においても、毎年東京で行われている「パラ駅伝 in TOKYO」では開催当初からボランティアとして参加都道府県のチームサポートとして、チームの方々が持てる力を十分発揮できるように、支援を行うなどの実体験を率先して行っています。

さらに、教職実践センター主催のシンポジウムを毎年開催し、今年も、特別支援教育に焦点を当てた内容を提案し、県内の教職員や保護者の方々や教員を目指す学生に参考になるようにしております。

最後に、日々の授業や研究等で多忙な中、様々な視点から原稿をお寄せいただいた先生方に感謝を申し上げますとともに、本紀要が教職実践センターとともにますます発展していくことを祈念しています。